

佐藤浩雄議員

◆**佐藤浩雄**委員 私は分からなかったのですが、聖籠町に無償譲渡した 2,294 平方メートルの土地については、どういう経過なのですか。

港湾振興課長

◎**港湾振興課長** この土地につきましては排水路でございまして、聖籠町が排水路を管理するということでの土地でございます。私どもで新潟東港を開発するに当たって、公共事業用地については、当然、港として使う部分以外にも、排水路ですとかが必要になってまいりますので、そういう部分については、無償で市町村に譲渡するという形でやっております。

佐藤浩雄議員

◆**佐藤浩雄**委員 分かりました。

もう一つは、平成 20 年度末時点で 77 万平方メートル残っていて、先ほど分かりやすく言えば簿価と現在価格の関係で赤字が出ないというか、安心できるということですが、さりとてこの会計をいつまでも継続するというのは、いい状態ではないと思うのです。29 億円もの一時借入金の残高があって、利息も発生するわけでしょうし。だとすれば、それぞれの県単事業用地だとか、いろいろ計画されているわけですから、それを早めるという努力を当然されているのは分かるのですが、一時借入金解消されれば基本的にはいいのではありませんか。ほかに計画がないとすれば、新たな土地利用計画を考えて、早くこの会計を閉鎖できる状態を作るべきではないか。いつまでもずるずると引きずっていても、もし簿価割れして赤字が出て、これをどうしても処理しなければならないということになるかもしれないわけで、そういうことから早く閉鎖するというのがいい形なのではないか。

計画していてもいつまでもその計画が動かないというのであれば、思い切って土地利用計画も変更すると。今、船も入れないような状態になっているわけですし、東アジアの拠点港を目指すわけです。そういう意味からすれば、工業用地としてすごく理想的な位置にあるわけですから、そういう計画なども抜本的に考え直す時期に来ているのではないかと。公共事業用地というのもいいのではありませんか。いいところなわけだから思い切った計画なども考える時期に来ているのではないかと。その点はどうか。

港湾振興課長

◎**港湾振興課長** 私どもでは、平成 18 年度に新潟東港開発についてはいったん区切りをつけて、工業用地につきましては企業局のほうに移管したということでございます。それから二、三年たっているわけでございますので、今、やるべきことは、できるだけ土地の売却を進めて一時借入金を少なくする。そして、そういう努力をしていく中で、やはり会計について考えるタイミングが出てくるのだらうと思いますので、そこら辺については、港湾整備事業の進捗(しんちょく)なども見ながら考えていきたいと思っています。

佐藤浩雄議員

◆**佐藤浩雄**委員 そうだと思うのですが、もし今の 54 ヘクタールある公共事業用地の計画が具体化しないのであれば、やはり思い切って、いい場所にあるわけだし、会計を閉鎖して土地は企業局に移すことも考えていいのではないかと。コンテナバースを造るとか、そういう公共事業に使うのであれば、それはいいですが、それこそ計画的にできることではないのではないですか。民間に買ってもらうのであればまだしも、やはり真剣に考えるべき時期に来ていると思うのですけれども、どうですか。

交通政策局長

◎**交通政策局長** 委員の御指摘も確かに一理あるかと思えます。ただ、私どもが先ほどから申し上げておりますように、工業用地としてふさわしい所は企業局にお任せしたという経緯がありまして、今、残っている土地というのは、基本的には水路に近い所とか、周りが港湾用地になっているような所、あるいは今後の開発予定地といった所、例えば国のほうでドックを造るために借りているというような所が大半でございまして、新潟港は今後一切整備しないと決断すれば別ですが、いろいろな二

一ズも出てきますし、しかも掘込港湾ですので、水路に面した土地というのは将来的な価値もあろうかかと思っているところでございます。非常に悩ましいところですが、いつまでもこういう状態というのはどうかという御指摘は確かにあろうかと思えます。ただ、今のやり方で将来計画も見据えながら、遅々とした歩みかもしれませんけれども、処分していくということが県財政にとってもいちばん負担が少ないやり方ではないかと思っております。

佐藤浩雄議員

◆佐藤浩雄委員 国なりが決断をしてはっきりと責任を持つというのならばいいわけですよ。そこまで詰めて確保しておくというのであれば、それはそれで分かるのですけれども、計画もなく、掘り込みに面しているから将来的にいい位置だということですが、いい位置であれば企業にとってもいい位置なわけでしょう。やはり国なりと詰めてしまえばいいことではないですか。簡単に言えば、計画があるから確保するというのであれば、用地の先行取得と同じようなものでしょう。そういう意味からすれば、計画を明らかにすると、一定のめどが立つような状況になりつつあると思うのです。私は現地を見ていないのですが、その辺はどうなのですか。

交通政策局長

◎交通政策局長 東港開発計画全体が非常に膨大な計画面積を持っていて、約1,500ヘクタールくらいあったわけです。すでに売却したところも当然ながらございますけれども、今、議論されているのは残りの77ヘクタールということで、全体からすると非常に少ないわけでございます。また、先ほど申し上げましたように保安港区として臨港地区も指定し、港湾計画に位置づけているということもございます。そういった中で、いきなり港湾計画も放棄しろと言われても、全体的にこれまでいろいろと調整しながら進めてきているということもございますので、もう少し寛容にお見守りいただければと思っております。

委員長

○委員長 以上で、新潟東港臨海用地造成事業会計の質疑は終了いたしました。
暫時、休憩いたします。